

手をつなごう、世界の仲間たち

実践場所	愛媛県	松山市立生石小学校	実践者	富阪 亜樹
対 象	小学6年生	時間数	17時間	
担当教科	6年担任	実践教科	総合的な学習の時間	
ねらい	<p>○エチオピアに対する興味関心をもたせ、文化や生活などを理解する。</p> <p>○世界には様々な国があり、多様な文化があることに気付く。</p> <p>○エチオピアの暮らしや活動する協力隊の姿から、できること、生き方を考える。</p>			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1	【世界って大きいな】 ・世界には多くの国があり、学習への見通しをもつ。		世界地図 絵本
	2・3	【アフリカってどんなところ？エチオピアってどんな国？】 ・アフリカと日本は、様々なつながりがあることを知る。 ・エチオピアについて基礎知識を得る。		スライド クイズカード
	4・5	【エチオピアの文化を体験しよう】 ・アムハラ語で挨拶をしたり、ダンスに挑戦したりする。 ・アセラの小学生に聞きたいことをまとめる。		民族衣装 DVD
	6・7	【食文化を味わおう】 ・主食を味わったり、コーヒーセレモニーについて理解したりして、家族の絆やおもてなしの心を知る。		主食インジェラ DVD スライド
	8	【小学生は、学校や家庭でどんな暮らしをしているのかな】 ・教育制度や課題について知り、その中で勉強や手伝いを頑張る少年の姿から一生懸命に生きること気付く。		スライド ポリ容器
	9-13	【エチオピアについて伝える準備をしよう】 ・何を伝えたいか考え、計画を立て、発表準備をする。		
	14-16	【世界の国について発表会をしよう】 ・調べた5つの国について発表し合い、感想をまとめる。		写真
	17	【ぼくたちにできることを考えよう】 ・発表会の感想を出し合う。 ・日本の支援(教育、コーヒー)、協力隊の支援について知り、できることを考える。		国ごとのメモ DVD
	成 果	<p>国それぞれに文化やよさがあることを知り、世界が身近になり興味が高まった。また課題にも気付き、視野が広がった。今後、関わり合って安心して暮らせる世界にするために何をしたらいいか、自分の生き方について考えを深めた。</p>		
課 題	<p>・日本との関わり、日本の国際援助、国際協力について学習を取り入れたい。</p> <p>・6年生対象に長い単元で授業を行った。もっと短時間で、低学年にも理解できる内容を考えていきたい。</p>			

[授業実践の詳細]

1 時限目「世界って、大きいな」

1 子どもの活動の流れ

- ① 白い紙に世界地図、知っている国名を書く。
- ② 世界地図と比較して、気付いたことを話し合う。
- ③ 「せかいのひとびと」の絵本を聞き、世界にはいろいろな人々が住んでいることに気付く。
- ④ 開発途上国が世界の8割を占めていることを知る。
- ⑤ 学習を振り返り、自分の考えをまとめる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 世界地図を書いたり見比べたりすることで、知っていると思っていた世界は、実は大きく、自分たちはごくわずかのことしか知らないことに気付いた。
- ◇ 絵本を読み聞かせ、思った以上に、外見だけでなく、生活習慣、言語など違いがあること、それが個性であり、すばらしいことであることを知った。
- ◇ 日本で当たり前の食文化も、外国から見ればおかしいこともあること、自分たちが当たり前ではないということを考えた。
- ◇ 電気や水など安心して暮らせていない国が多いことに気付いた。何かできることはないかと考えを巡らせた。

3 使用した教材

- <教材1> 『せかいのひとびと』の絵本
- <教材2> 開発途上国の国名、世界地図を塗った資料(割愛)

この時限のねらい

- 世界にはたくさんの国があり、様々な人が住んでいること、私たちはよく知らないことに気付く。
- 世界の国の8割は開発途上国であり、世界の国々への関心を高める。



絵本『せかいのひとびと』

2-3 時限目「アフリカってどんなところ？エチオピアってどんな国？」

1 子どもの活動の流れ

- ① アフリカクイズをする。
- ② アフリカについて知る。
日本からの遠いこと、地形、人口増加、経済成長など
- ③ エチオピアクイズを通して、エチオピアについての気候・地形や歴史などを知る。
- ④ 本時の感想を発表する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 児童がもっているアフリカやエチオピアのイメージ(暑い国、経済が発展してない等)が変わった。
- ◇ クイズを通して、日本とほとんど関わりがないと感じていたことが、大いに関わっていることに驚いた。

この時限のねらい

- アフリカは日本と様々なつながりがあることに気付き、身近に感じ、興味関心を高める。
- エチオピアという国がどういふところか簡単な特徴を理解する。

◇電気や水、アスファルトなどが無いことを知り、不便な中で工夫して生活していることに驚いた。

◇不便な暮らしの中で、子どもたちがどんな生活をしているか、関心が高まった。

3 使用した教材

<教材3>アフリカクイズ(割愛)

<教材4>地図(世界地図、アフリカ地図)(割愛)

<教材5>アフリカについてのプレゼンテーション(パワーポイント抜粋)



<教材6>エチオピア YES・NOクイズ

エチオピアYES・NOクイズ		
① エチオピアは、アフリカにあり、赤道の近くなので、8月はとても気温が高く、暑い。 YES・・・③ NO・・・⑤	② エチオピアの子どもたちは、写真を撮るとき、笑顔でピースをします。 YES・・・⑥ NO・・・⑤	③ 牛、やぎ、馬などの家畜を山や畑でよく見かけた。 YES・・・③ NO・・・②
④ エチオピアの小学校では、アムハラ語を習います。 YES・・・③ NO・・・⑥	⑤ お金の単位は、ブルです。エチオピアでは、日本円が使って日本円で買い物をしました。 YES・・・⑤ NO・・・⑦	⑥ 先生は、町一番のホテルに泊まったが、水がでなかった。前日に水道が止まったそうだ。 YES・・・⑦ NO・・・③
⑦ エチオピアの人に日本のせんべい(雪の宿)をプレゼントした。おいしいと言って食べてくれた。 YES・・・④ NO・・・①	⑧ エチオピアのアセラ小学校は6時間授業です。午後から学校へ行き、5時頃に終わります。 YES・・・② NO・・・④	⑨ 先生は、エチオピアで、洋式のトイレと和式に似たトイレの2種類を見た。トイレトーパーは、かごの中に捨てた。 YES・・・① NO・・・⑤

<教材7>エチオピアについてのプレゼンテーション(パワーポイント抜粋)

	エチオピア	日本
人口	8295万人	
面積	約109万平方キロメートル	
通貨	ブル(1ブル=5円)	円
民族	オロモ族、アムハラ族、ティグライ族など約80の民族	日本
言語	アムハラ語、オモロ語、英語など	日本語、たぐさん
宗教	キリスト正教、イスラム教	
首都	アジスアベバ(標高約2500m)	東京
	3,146,999人	



4-5 時限目「エチオピアの文化を体験しよう」

1 子どもの活動の流れ

- ①なぜエチオピアについて学習しているのか、話し合う。
- ②公用語アムハラ語を読んだり書いたりする。
- ③アムハラ語で挨拶をしたり、書いたりする。
- ④エチオピアの民族衣装を見たり触れたりする。
- ⑤ダンスの動画に合わせてみんなで踊る。
- ⑥ナショナルデーについて知り、感想を話し合う。

この時限のねらい

- エチオピアを身近に感じる。
- 言語や簡単な挨拶などエチオピアの文化に触れる。
- エチオピアの音楽、ダンスを体験し、民族について考える。

2 子どもの活動の成果・反応

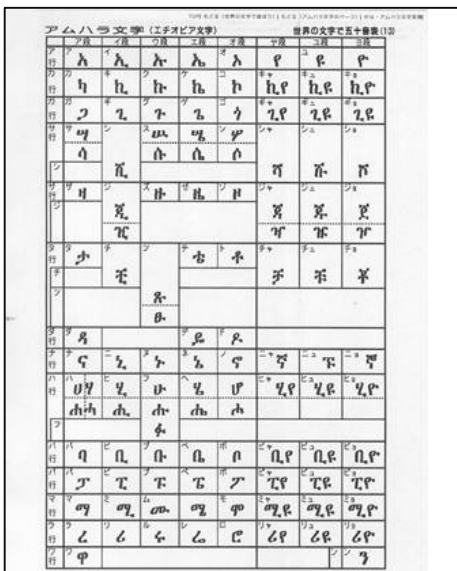
- ◇エチオピアグッズを見て、日本と比較しながら手に取って見ることで、興味関心が高まった。
- ◇アムハラ語を見たり書いたりして、難しい言語だと感じた。練習するうちに、名前が書けた喜び、形の面白さを発見して楽しむことができた。アフリカで唯一言語をもつ国の歴史に触れることができた。
- ◇民族衣装やスカーフなどに興味をもち、その美しさ、手作りに気付いた。
- ◇動画を見ながら、みんなで楽しく踊った。
- ◇衣装などが似ていることにも気付き、エチオピアらしさを感じ取ることができた。
- ◇約80の民族が、それぞれのダンスをもち、伝統を大事にしていることに気付いた。

3 使用した教材

<教材8> エチオピアグッズ（紙幣、コイン、銀行の両替証明書、レシート、飛行機内のメニュー表など）



<教材9> アムハラ語五十音表、簡単な挨拶のプリント



<教材 10> エチオピアの民族衣装



<教材 11>4つの民族のダンス(動画)

<教材 12>ナショナルデー(民族について考える日の写真)



6-7 時限目「食文化を味わおう」

1 子どもの活動の流れ

- ①食文化とは何か考える。
- ②食事について知り、主食「インジェラ」を味わう。
- ③コーヒーセレモニーについて知る。
- ④エチオピアの人々の思いについて考える。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇食事(主食)をみんなで食べることから仲がいい、楽しんでいると気付いた。
- ◇主食を味わい、酸っぱくて口に合わなかった。エチオピアの気候、地形に合わせて栽培されており、唯一の生産国であることから、大事にしているものであると感じた。
- ◇コーヒーセレモニーを知り、近所の人やお客さんを大事にしていること、ゆっくりとみんなでコーヒーを飲み、話をする時間を楽しんでいることに驚いた。長い伝統が人々の絆を育てていることに感動した。

3 使用した教材

<教材 13>食事についてのプレゼン(パワーポイント抜粋)



<教材 14>主食(インジェラ) (本物)(割愛)

<教材 15>コーヒーセレモニーについての写真、動画



この時限のねらい

食文化から、エチオピアの人々が人との関わりを大切にしていることをとらえる。

1 子どもの活動の流れ

- ①教育の状況、問題点を知る。
- ②学校の様子を知る。
- ③お手伝いの様子を知る。
- ④自分たちと比べ、相違点を見つける。
- ⑤アンケートや一人の少年の姿から、夢をもって頑張っていることを実感する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇就学率が上がっているけれど、家庭の事情で中途退学する子どもが多いことに問題を感じた。
- ◇学校の施設、用具がない中で勉強を頑張っていることに気付いた。
- ◇勉強したり友達と遊んだり自分たちと同じように暮らしている。
- ◇家族の一員としてお手伝いをして、家族を助けていることに気付き、自分と比べて反省した。
- ◇夢をもって学習に取り組んでいることを知り、同じように頑張ろうと思った。

3 使用した教材

<教材 16>学校の施設や、授業風景の写真プレゼン(パワーポイント抜粋)



①の授業



②教室



<教材 17>エチオピアの小学生にしたアンケートの回答

- ⑬宿題はあるか。どんなものが宿題か？
あります。教科書にある問題を解きます。
- ⑭学校は好きか？
好きです。友達に会えるから。遊べるから。
(家にいると家事をやらなければならないから、自由時間はあまりないから。)
- ⑮勉強のやりがいって何ですか？
テストで高得点をとることができる。
答えが合うと楽しい。
- 【子どもの家庭生活について】
- ⑯家のどこで勉強するのか。
居間、自分のベッドの上です。
(自分の部屋・勉強机はない。)
- ⑰家で何時間勉強するのですか？
2～4時間です。ご飯の前後や手伝いの
空き時間にします。(個人差あり)
- ⑱好きなスポーツは？
ゴムとび(一番人気)、卓球、サッカー、バレーボール
- ⑲将来の夢は何ですか？
医者、エンジニア、看護師、科学者(理系科目が人気です。)

<教材 18>お手伝いの写真



<教材 19>水をいれたポリタンク(割愛)

9-13 時限目「エチオピアについて伝える準備をしよう」

1 子どもの活動の流れ

- ①各クラス、国ごとに何を伝えたいか話し合う。
- ②発表方法や資料について話し合う。
- ③発表準備や練習を行う。

2 子どもの活動の成果・反応

◇伝えたいことは、エチオピアの人の心であり、大事にしているものを伝えたい思いが強まる。

◇必要な資料を探し、準備を意欲的に進めた。

3 使用した教材

<教材20>エチオピアの写真(コーヒーセレモニー、コーヒーを注ぐところ、小学校の教室)



この時限のねらい

クラスみんなに伝えたいことをはっきりさせ、友達と協力し合って発表の準備をする。

14-16 時限目「世界の国について発表会をしよう」

1 子どもの活動の流れ

- ①エチオピア、インドネシア、ブラジル、アイルランド、モンゴルについて国別に発表する。
- ②感想をまとめる。

2 子どもの活動の成果・反応

◇関心をもって、自分が調べた国以外の発表を聞いた。

◇自分の調べた国、伝えたいことを、聞き手に分かるように工夫し発表した。

この時限のねらい

自分の調べた国について伝えたいことをはっきりさせ、発表する。友達の発表を聞き、いろいろな国について自分の考えをもつ。

17 時限目「ぼくたちにできることを考えよう」

1 子どもの活動の流れ

- ①国別に伝えなかったことを発表する。
- ②発表会や伝えたいことを聞いての感想を出し合う。
- ③エチオピアに派遣されている青年海外協力隊の話聞く。
- ④世界の人とつながるにはどうしたらいいか、何ができるか考えを発表し、まとめる。

この時限のねらい

発表会で感じたことを出し合い、自分に何ができるのか、世界とつながっていくにはどうしたらいいのか自分の考えをもち、これからの生き方に生かす。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇世界の国々の文化や暮らしの違いを発見し、その国の伝統であり、個性であることと考えた。
- ◇生活は、不便であるけれど、家族や地域とつながり、幸せに暮らしていることが分かった。
- ◇世界とつながり、支えあっていく必要を感じた。
- ◇自分たちにできることを考えた。

3 使用した教材

<教材 21> 青年海外協力隊の方のインタビュー(DVD、写真)



全体を通して

1 授業の様子



写真1：世界について考えた授業（第1時）



写真2：エチオピアYES・NOクイズ（第3時）



写真3：ダンス体験（第5時）



写真4：水くみの手伝い体験（第8時）

2 参考文献・資料

- 1) ピーター・スピーア著『せかいのひとびと』1982年 評論社